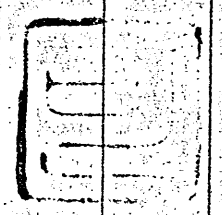


一三、一、七
一三、四、一〇

六年餘	十一年餘
十五年餘	二十三年餘
大正十一年余	十四年十月余
十六年八月余	二十三年五月余
十七年八月余	十八年九月余

内閣書記官長	小橋	一太
判事長崎控訴院長手塚	太田	
東京府國大書記長	古森由直	
北洋支店大書記長	佐藤昌介	
京都府國大書記長	荒木實久	



從二位勳一等子爵加藤高明
任内閣總理大臣

内閣總理大臣子爵清浦奎吾
依願免本官

右
勅旨ヲ奉シ謹テ奏ス



宣士口上宣口口為可同日全全

大正十三年六月

陸軍大臣宇垣一成

臣 宇垣 奏

老齡大政變理、任ニ耐ヘス
仰願フ

聖明垂鑑臣、大任ヲ解キ給ハム

コトヲ誠恐誠惶謹ニテ奏ス

大正十三年六月吉日 内閣總理大臣子爵清浦奎吉

從二位勲一等子爵清浦奎吾
特ニ前官ノ禮遇ヲ賜フ

勅右
旨ヲ奉シ謹テ奏ス

大正十三年六月

内閣總理大臣子爵加藤高明

市土田三郎